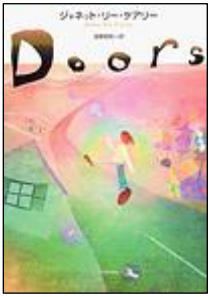
ドアーズ

ケアリー作　浅尾敦則訳　理論社

父親は昨年、大学を解雇され、ゾーイの家族は、ワンボックスカーに乗って、家と仕事を探す旅に出た。家を離れる直前に、彼女は自分の部屋のクロゼットのドアノブを取ってきた。ガラスでできたドアノブは、居場所のシンボルで、祖母がくれたものだった。車の中で不便な生活をしながら、新しい小学校に通いはじめたゾーイ。でも、車の家が恥ずかしくて友だちを招待できない。連休を利用してゾーイは内緒で前の家に戻り、しのびこんだ。すると、家の裏が燃え上がっていた…。